

令和元年 度厚生労働行政推進調査事業費補助金（慢性の痛み政策研究事業）
分担研究報告書

高齢の慢性腰痛患者に対する小規模な集学的診療の実践

分担研究者 中塚 映政 なかつか整形外科リハビリクリニック 院長

研究要旨

慢性疼痛患者に対して、医師・看護師・理学療法士、作業療法士、臨床心理士などが協同して、評価・治療を行う集学的診療の有効性は欧米を中心に数多く報告され、本邦でも痛みセンターを中心に治療が行われている。一方、クリニックにおいて、慢性疼痛患者に対して集学的診療を実践している施設は未だ少ない。今回、我々は、従来の治療法では効果が認められなかった高齢の慢性腰痛患者に対して、痛み専門医・看護師・理学療法士による小規模な集学的診療を実践して、治療効果を得ることができた。さらに、大阪大学医学部附属病院などの痛みセンターと協力して近畿地区におけるクリニックと痛みセンターとの連携を推進している。

A．研究目的

慢性疼痛患者に対して、医師・看護師・理学療法士、作業療法士、臨床心理士などが協同して、評価・治療を行う集学的診療の有効性は欧米を中心に数多く報告され、本邦でも痛みセンターを中心に治療が行われている。20歳以上の男女を対象に、慢性疼痛の保有率の把握・慢性疼痛の治療実態・患者ニーズの把握を目的として全国調査が実施され、慢性疼痛保有率は22.5%であり、患者数は2,315万人と推計された。このように莫大な数の慢性疼痛患者に適切に対応するには、地域の病院やクリニックが痛みセンターと連携して慢性疼痛診療の一部を担う必要があり、また、慢性疼痛診療に対応できる医療機関を増やなければならない。一方、クリニックにおいて、慢性疼痛患者に対して集学的診療を実践している施設は未だ少ない。このような現状を打破するために、我々は、従来の治療法では効

果が認められなかった高齢の慢性疼痛患者に対し、痛み専門医・看護師・理学療法士による小規模な集学的診療を実践している。さらに、大阪大学医学部附属病院など痛みセンターと協力して関西地域におけるクリニックと痛みセンターとの連携を推進することが本研究の目的である。

B．研究方法

集学的アプローチのチーム構成は基本として、医師・看護師・理学療法士・作業療法士・臨床心理士など多分野・他職種の専門家で構成される。しかし、当クリニックの集学的アプローチのチーム構成は医師・看護師・理学療法士と小規模である。

慢性疼痛ガイドラインでは、各職種ごとの役割として、医師は、生物学的病態生理を評価に必要な検査を行って病態の診断を行い、薬物処方管理、生物学的病態に対する処置および、患者教育を行う。看護師は患者の訴え

の傾聴,病歴等の情報収集・アセスメント,バイタルサインのデータ採取や検査・治療の介助等の診療補助,さらに患者家族も含めた患者教育や生活習慣等の指導を行うとされている。また,理学療法士は,筋骨格系の検査と評価,筋骨格系の再調整,ストレッチングなどセルフケアの指導,仕事や生活環境の分析とこれに対する身体再調整,理学療法的な教育を担うとしている。当クリニックのチーム構成では,スタッフの役割はこれだけにとどまらない。当クリニックのチーム構成では他の職種による知識・評価が不足する場合がある。我々が臨床現場で不足を感じる情報として心理面の専門家による心理社会的評価である。これに対して理学療法士を主として,質問指標などで検査を実施しているが,情報を統合して解釈していく中では,専門職である心理士に意見を求めたくなることは多い。そんな時は,理学療法士を中心に医師・看護師とカンファレンスを開催し,治療方針や治療目標などについて検討する。小規模な集学的診療のチーム構成であるメリットとして,このようなカンファレンスを随時開催でき,治療方針の決定や身体機能の変化や目標の変更に柔軟にスピード感をもって対応することが可能である。また一般的な外来患者と同様に,通院される慢性疼痛患者の治療介入の頻度を高めることも出来る。

(倫理面への配慮)

本研究参加者へは十分な説明を行い,同意を得ている(福島県立医科大学倫理委員会)。

C. 研究結果

整形外科クリニックにおいて慢性疼痛患者に対して小規模な集学的診療を行なった。医師・看護師・理学療法士は集学的診療に関する講習会や研究会に参加して治療方法を学ん

でいる。その知識を基に,医師・看護師・理学療法士は慢性疼痛患者の評価を行い,その結果を協議し,治療方針を決定した。具体的な治療としては,薬物療法・運動療法・認知行動療法である。慢性疼痛患者に対する治療効果の判定については,疼痛強度はVAS・NRS,日常生活障害度はPDAS・RDQ・EQ-5D,破局的思考はPCS・TSKなどを用いた。高齢の慢性腰痛患者に対して集学的診療を行うことによってVAS, PDAS, RDQ・EQ-5Dはいずれも有意に改善した。

D. 考察

本研究結果から,従来の治療法では効果が認められなかった高齢の慢性腰痛患者に対して,整形外科クリニックにおいて小規模な集学的診療を行うことによって治療効果が得られ,高齢の慢性腰痛患者のADLならびにQOLを改善することが明らかになった。従って,高齢の慢性腰痛患者が整形外科クリニック診療で治療効果が得られれば,ドクターショッピングする機会が減り,医療費が減少するだけでなく経済的損失も軽減することが期待できる。

E. 結論

整形外科クリニックにおいて高齢の慢性腰痛患者に対して集学的診療を行うことにより,治療効果が得られ,そのADLならびにQOLを改善することが明らかになった。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載

G. 研究発表

1. 論文発表

1) 谷口亘, 西尾尚子, 山中学, 太地良, 筒井俊二, 中塚映政, 山田 宏: 変形性膝関節

症における荷重時痛と TRPV1 に関する
CatWalk を用いた解析. PAIN RESEARCH 34
(3), 247-253, 2019

2) 谷口亘, 中塚映政 : 【長引く痛みに向き
合う】《それぞれの痛みはどうつきあうか》
肩こりを科学する(解説/特集). Modern
Physician 39 (3), 263-265, 2019

2.学会発表

1) 山中学, 谷口亘, 筒井俊二, 太地良, 西
尾尚子, 中塚映政, 山田宏 : 非依存性 NMDA
受容体を介するケタミンの疼痛抑制メカニズ
ム. 第 41 回日本疼痛学会, 2019. 7. 名古
屋

2) 太地良, 西尾尚子, 谷口亘, 山中学, 曾
根勝真弓, 筒井俊二, 中塚映政, 山田宏 :
脊髄後角細胞における Riluzole のシナプス
伝達抑制作用. 第 41 回日本疼痛学会,
2019. 7. 名古屋

3) 泉尚史, 谷口亘, 西尾尚子, 山中学, 曾
根勝真弓, 筒井俊二, 中塚映政, 山田宏, 吉
田宗平 : 脊髄後角におけるキノホルムの興
奮性シナプス伝達増強作用. 第 41 回日本疼
痛学会, 2019. 7. 名古屋

4) 山本将揮, 鈴木俊明, 中塚映政 : 理学
療法士の介入による Roland-Morris
Disability Questionnaire の各質問項目変
化についての検討. 第 12 回日本運動器疼痛
学会, 2019. 11. 東京

H .知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1.特許取得

なし

2.実用新案登録

なし

3.その他

なし